

O r i g a m i

折り紙の花園に魅せられて



布施知子さんの折り紙作品から 右：多重平折りによる平面造形 上中：らせんのコイル 上左：らせん折りのランプシェード 左下：スパイラルタワーによる林表紙：コイル折りのランプシェード

折りの宇宙に遊ぶ

「Origami」が世界共通の言葉であることをご存じですか。

「千羽鶴」や「兜」に代表される伝統的な手遊びから、自動車のエアバック、宇宙空間で広げる太陽電池パネルの折り畳みといった工業・産業分野での応用に至るまで、折り紙は幅広い領域で、さまざまな目的に応じた深化を遂げています。

こうしたなか、折り紙のプロフェッショナルとして世界を舞台に活躍しているのが、長野県大町市在住の布施知子さんです。布施さんの作品は、伝統の折り紙を応用した手のひらに乗る造形をはじめ、神秘的なオブジェ、建築物の内装空間の演出など実に多彩。そのどれもが一枚の平坦な紙から、「折り」という作業のとめどない繰り返しで生み出されます。パーツに分けて折った多面体を組み合わせて立体を構成する「ユニット折り」、角柱をねじりながらコイル状に折り畳む「コイル折り」、編み込んだと思えない複雑な幾何学模様が描き出される「平折り」「多重平折り」、同じかたちを無限に折り返す「無限折り」など数々の折りの技法を駆使し、独自の世界観を表現しているのです。

「いつも考えているのは折りのこと。まず断片を思い描き、実際に折ってみてまた考え、展開図を描いて折って確かめ、あとはひたすら折り続けます」。大型の作品になると180cm×110cmの特注和紙を用い、何ヶ月もかけて折っていきます。気が遠くなる地道な作業ですが、「ただただおもしろくて」と、布施さんは笑顔を見せます。

布施さんが折り紙と出会ったのは小学校時代。身体が弱く、入院中に薬包紙で折ったユリの花が最初の作品でした。

た。その後も本を参考に新しい折りに挑戦し続け、やがて出会った「ユニット折り」で新境地を開拓。著作や展覧会が世界的な注目を集めます。

「まさに扉が開いた感覚でした。ユニット折りの先に広がっていたのは、見たこともない花園だったんです」。折り紙の花園に足を踏み入れた布施さんは、以来、この道一筋。新たな折りの技法やデザインを開発し、独創的な作品を発表しては世界のアートシーンに驚きと感動を提供してきました。また、折り紙を科学的、学術的に研究する組織に招かれて発表の機会を持つなど、折り紙の可能性を拡げていく活動にも取り組んでいます。一方、地域の高齢者の折り紙クラブも指導。未知の折りを探究し続けるのも、誰もができる折りを多くの人々と共有するのも、布施さんにとっては「花園」で過ごす大切なひとときなのかもしれません。

布施さんのアトリエ兼住居は、大町市八坂の山村。あふれるほどの自然と向き合い、野鳥、小動物、虫など多様な生きものと共存する山暮らしの中で、日々発想を膨らませ、折りに没頭しているようです。今、力を入れて取り組んでいるのは「折られた紙そのものの美しさが際立つ造形」。誰もが子どものころ楽しんだ「おりがみ」が布施さんの感性と技で「Origami」アートとして、美しく花開いてゆきます。



A4の紙1枚で折られた箱

折ってみよう、使ってみよう



扇の箸袋

折り紙は四季の暮らしに愛らしい彩りを添えてくれます。新年の食卓にふさわしい「扇の箸袋」の折り方を教えていただきました。A4の紙1枚で2膳分を作れます。

A4版(210×297mm)を
半分に切った長方形

- 1 A4
- 2
- 3 軽く折り線をつける
- 4
- 5
- 6 段に折る
- 7 半分に折る
- 8 aと同じ幅くらいで折る
- 9 一枚を間に折る
- 10
- 11 右は開いてつぶして平に折る
- 12
- 13 扇を立てて開く
- 14 完成!!



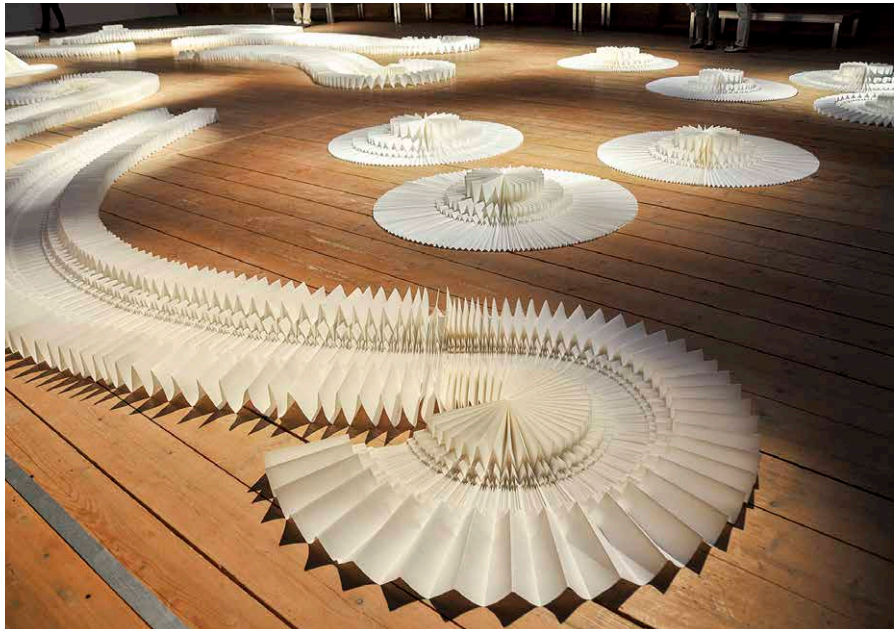
海外のホテルで「日本」を発信

インドネシアの首都ジャカルタの日系高級ホテル「AXIA South Cikarang」のレセプションカウンター壁画、エントランス照明、スパの壁面照明、客室の装飾などに採用されている。折りによって紡ぎ出される和紙の造型と彩りがエキゾチックな美をかもし出す。



折り紙で表現する「枯山水」

白い和紙を用い「無限折り」によって織りなされた山や川を配置した折り紙の「枯山水」は、ドイツの展覧会で折りの技術と哲学的な表現が観客を驚かせた。2016年春に安曇野豊科近代美術館で開催された「布施知子ORIGAMI展 ～紙と折りのリズム～」でも展示。



無限の広がり、「折り」の宇宙

布施知子さんの「折り紙」の世界は、花や小動物などの折り紙細工から、さまざまな形状の「箱」、「ユニット折り」や「コイル折り」のオブジェやインテリア、「平折り」「多重平織り」を駆使した織物のような装飾作品、ダイナミックな「折り紙の枯山水」表現など、無限ともいえる広がりには満ちています。既存の枠にとらわれず自由自在な造型を生み出す原動力は、布施さん自身が感じている「折ることの尽きない楽しさ」にあるようです。作品の数々は一作家のアート作品にとどまらず、新しい「日本の美」の象徴として、各方面から注目されています。

世界に広がる「Origami」。

Profile

布施知子さん



日本を代表する折り紙作家。大町市八坂の古民家で版画家の夫・鳥海太郎氏と愛猫と暮らしながら作品制作にいそしむ。フランス、イギリス、ドイツ、オーストラリア、アルゼンチンなどに招かれ個展開催。新潟県長岡市生まれ。『ハッとすゝ! 折り紙入門』『できた! ユニット折り紙入門』(筑摩書房)、『おりがみ 四季折々』(NHK出版)、『SPIRAL-Origami Art Design』(洋書)他、著書多数。その多くが各国で翻訳されている。2017年春、国際紙パルプ商事株式会社(東京都中央区明石町)本社ロビーにて最近の作品が展示される予定です。お楽しみに。

取材協力・写真提供／布施知子氏

美と実用と癒やしが共存する ランプシェード

照明デザイナーと組んで新発想のランプシェード制作にも取り組んでいる。折りの技術を駆使し、たたんで収納することのできる和紙のランプシェードは美と実用に加え、柔らかな光による癒やしの要素をあわせ持つ。



MIYAMA information

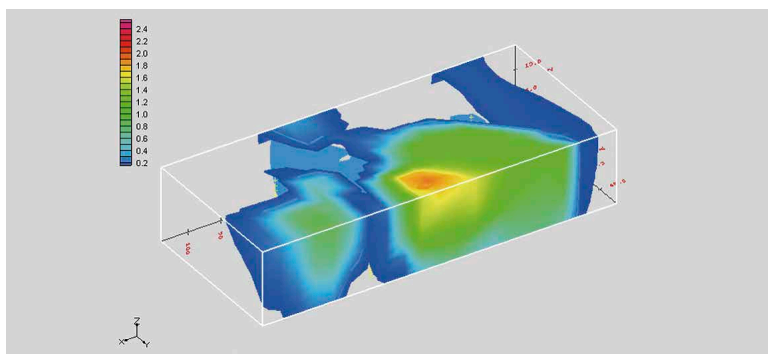
ミヤマがご提案する汚染土壌の浄化対策です

ミヤマでは、目に見えない地中の環境汚染に対し、事前の調査・分析により汚染物質の成分や土壌の性状、拡散状況等を踏まえたうえで、環境負荷の少ない最適な手法をご提案します。

土壌汚染調査

土壌汚染対策法に基づく調査に加え、自主調査も承ります。土地取引、工場移転、漏洩事故、事業譲渡等に伴う調査実績があり、ケースに応じて土地の履歴や土質、地下水経路、汚染経過等の調査を行います。また汚染の拡散シミュレーションや対策計画の策定なども行っており、状況に合わせた対策をご提案します。行政対応についてもご相談ください。

指定調査機関(2003-4-1022)



【調査・対策事例】

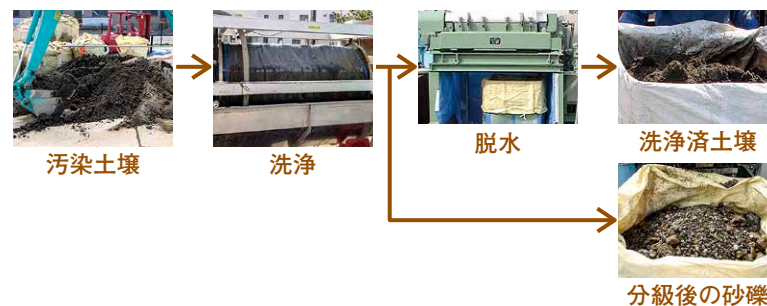
- **工場跡地の売却**
土壌調査により土壌汚染を確認。跡地利用が決まっていたため、早急に対策計画を提案・実施。円滑に土地取引が完了。
- **工場用地の取得**
工場用地の土壌調査で汚染を確認。
行政・地権者・地域住民・企業等、関係者の合意が得られる対策を提案。
- **設備からの漏洩**
改正水濁法に基づく点検業務(ミヤマ実施)により埋設タンクの損傷を発見。土壌汚染が確認されたため行政へ報告し、汚染土壌を処理。他

汚染土壌の現地洗浄

自社開発した土壌中の有害物質を効率的に液中に溶出する科学洗浄技術で、これまで困難とされたセレンや鉛、ほう素、ふっ素、六価クロム等、第二種特定有害物質による高濃度汚染土壌の「現地洗浄」を実現します。土壌搬出のない現地処理は環境負荷が低いことはもちろん、搬出や埋め戻し等に掛かるコストも大幅に削減が可能です。



【処理フロー】



第29回「長野市景観賞」受賞

本年3月に移転をしたミヤマ新本社が長野市景観賞を受賞しました。拠点統合による事業の効率化、商品開発力の強化を目指し新設された新本社には、社員の職場環境向上や地域住民の方々に対し心地よい環境を提供することを目的とした緑化スペースが設けられています。今回の表彰では、社屋と緑化スペースが一体となって地域の景観向上に貢献していることを評価していただきました。



2016 December - 2017 January



総合環境企業

ミヤマ株式会社

本社 / 〒381-2283 長野県長野市稲里一丁目5番地3 TEL.026-285-4166(代) FAX.026-283-0011

■リサイクルセンター／東京・燕・秋田・名古屋・大阪 ■工場／中野・上越・分水・燕・大町
■EM開発センター ■長野テクノセンター ■保全機材センター
■名古屋プラントサービスセンター ■関西プラントサービスセンター
■営業所／盛岡・秋田・仙台・郡山・宇都宮・水戸・新潟・燕・上越・中野・長野・上田・松本・諏訪
甲府・前橋・埼玉・千葉・横浜・静岡・富山・名古屋・京都・大阪

詳しくは当社ホームページへ <http://www.miyama.net/>

PIGEON POST #36

発行日：平成28年12月1日 発行人：南 克明 企画：ミヤマ株式会社 広報室 制作：デザインワンエイト